

須恵区自主防災について

平成30年度組合長会議配布

須恵区自主防災会

皆さんの住居場所は

岡山県浅口市金光町《須恵区》です。

須恵区自主防災会

○南海トラフ大地震に備えて構成される須恵区独自の防災組織です。

○「三助」自助 自分の命は自分で守る。

共助 地域で助け合い、被害の拡大を防ぐ。

公助 行政機関による救援と復旧・復興

三助の内、公助の機能停止を想定し、自助の啓発と共助の効率化推進を目的とします。

○須恵区防災会支部

村上西組合・大戸平組合・丸山組合・本谷上組合・本谷中組合・安井組合・殿部一組合・殿部二組合・殿部三組合・岸名組合・一一会組合・八荒神組合・井上組合・吉備区組合・平田団地・沼地区
計16支部

○支部第一集合場所

村上西⇒**荒神様** 大戸平⇒**中央空き地** 丸山・本谷上⇒**コミュニティー広場** 本谷中・安井⇒**チビッコ広場** 殿部一⇒**上池西広場** 殿部二・一一会・吉備区・平田団地⇒**善城寺駐車場** 殿部三⇒**下池北広場** 岸名⇒**岸名公民館** 八荒神⇒**石井家西広場** 井上⇒**中央空き地** 沼地区⇒**地区北広場**

○自助の啓発

会員家族はお年寄りから赤ちゃんまで全員「安否確認カード」を携帯。

会員各世帯に1個の防災ホイッスルを提供、自主的に家族全員が1個携帯。

ヘルメット購入か防災頭巾の準備(防災頭巾教室開催)。

防災リュック装備(各支部で説明会開催)。

○共助の効率化

避難訓練を行います。

避難所運営能力の向上を図ります。

防災倉庫の充実を図ります。

防災についての連絡・質問は…

防災部長

震災発生時の避難活動の検証

対象とされる地震

南海トラフ大震災関連の震度5弱以上の地震

海溝型地震(東日本大震災)

内陸型地震(阪神大震災、熊本地震)

ブロック型地震(鳥取連続地震)

避難の流れ(冬、休日の朝、天候は晴れで想定)

地震が発生 携帯電話・ラジオから地震警報が鳴り、災害サイレンが60秒3回
流れます。

災害サイレンの発令は震災の数分後です。

震度5弱を想定(家屋倒壊)

目測・体感で明らかに家に被害が出ています。

ライフライン(水道、電気、道路等)は寸断されました。

《自 助》

1 まず我が身を守る。

2 続いて家族の安否を確認する。

余震の恐れがある。

3 脱出出口の確保。

4 安全で余裕があれば電源やガスの元栓を閉じる。

5 野外の安全確認。

頭上の電線や屋根瓦に注意。

家屋周辺で火事や交通事故が発生している可能性あり。

道路もがけ崩れ、ブロック塀の倒壊で不通の可能性あり。

6 道路環境を見極めて「支部第1集合場所」に集まる。

ただし水や火などの危険があればとりあえず安全な場所で待機。

黄色いハンカチ(支部による)を玄関・門前に掲示。

防災頭巾・防災袋を持ち非難

《共 助》

7 「支部第一集合場所」

各支部ごとに集まり、助け合います。

安否確認

要援助者・独居者の安全確認

人手と資材をそろえた救助活動・治療活動・初期消火活動

多人数による子供の出迎え

※市役所・警察・消防署など公共機関はもとより、須恵区自主防災会自体も被災者となっている可能性あり。

家族以外に頼れるものは隣近所の助け合いしかありません。

災害発生時の主体は各支部であり、当面の活動・状況判断は各支部が行なうこととなります。

8 須恵区自主防災本部(震災時、須恵公会堂に設営)に連絡。

本部は災害の規模、各種情報収集により、区全体の避難について判断し各支部に連絡を行います。

9 須恵区自主防災本部よりの連絡により「避難所」へ移動します。

10 「避難所」(吉備小学校)

避難所運営委員会(仮)の指示に従いグラウンドに支部ごとに集合し、ここで《公 助》を待つこととなります。

※避難所に入る家族も家が無事だった家族も、支援物資の受け取りなど「避難所」の世話になります。